

4 MICE 誘致の推進

- ▶ MICE 開催都市として選ばれ続けることは、東京のプレゼンスの向上につながるため、誘致に向けた支援は重要である。
- ▶ このため、安全・安心な MICE の開催についての情報発信を充実するとともに、DX の進展を踏まえ、先端技術を活用した MICE の確立に向けた取組を推進していく。
- ▶ さらに、MICE 主催者が開催都市に求める要件として重要度が増している SDGs にも配慮したサステナブルな MICE の実現に向け、島しょ地域への誘致や受入れに対する都民の理解促進を図っていく。

MICE 誘致に向けた競争力の強化

MICE における DX の推進

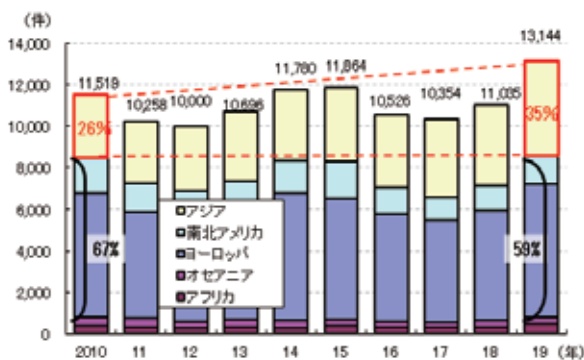
持続可能な MICE の推進

MICE 誘致に向けた競争力の強化

【現状と課題】

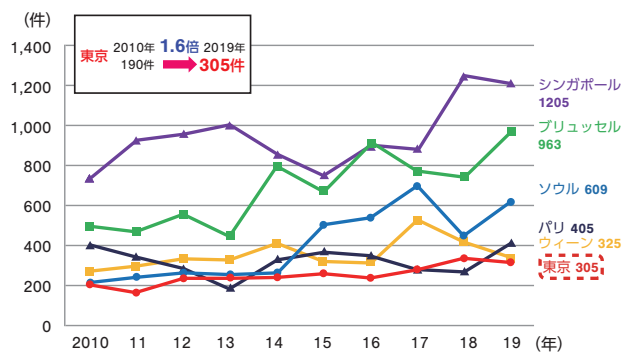
- 世界の国際会議市場に占めるアジア市場は、2010年の26%から10年後の2019年には35%と確実にシェアを伸ばしている。(図表12)
- 東京での国際会議開催件数は、2010年の190件から、2019年には305件と増加したが、他都市の誘致も活発化しているため、順位の変動はない。(図表13)

図表12 世界の国際会議市場



出典：「国際会議統計」(日本政府観光局)

図表13 都市別の国際会議開催件数



出典：「国際会議統計」(日本政府観光局)

- 2020年以降、新型コロナの感染拡大による海外からの入国制限や国内での人流抑制などの影響を受け、東京で開催が予定されていた多くのMICEは中止や延期を余儀なくされた。
- 一方、インバウンド需要はビジネス客から回復することが見込まれており、ビジネス客をターゲットとした観光の魅力発信が重要である。また、数年先の開催を目指すMICEの誘致競争は依然として継続していることから、東京での開催の魅力の向上に向けた取組の支援や安全・安心な開催についての情報発信などの取組を重点的に推進し、国際競争力を強化していくことが求められる。

【具体的な取組】

- ▶ 海外他都市との誘致競争を勝ち抜くため、令和4年度からの3年間を重点措置期間として、国際会議の誘致や開催に係る経費への支援を拡充する。
- ▶ MICE関連事業者の誘致活動を支援するため、海外への訪問営業（ロードショー）をはじめ、開催地の決定に影響力を持つミーティングプランナー等に向けたPR活動やファムトリップの実施、さらには海外でのMICE見本市へのブース出展等の取組を充実させる。
- ▶ 国内外の業界専門誌等への広告掲載により、国際会議や展示会主催者が講じる感染防止対策など安全・安心に係る取組について、関係者等へのPRを支援していく。
- ▶ コロナ禍における海外企業の会議（M）や報奨旅行等（I）の小規模化や分散化のニーズを踏まえ、開催地決定に影響力を持つミーティングプランナー等向けに、小規模・分散開催を提案するための視察機会の提供やPR活動を充実させる。
- ▶ MICEの分散開催に対応するため、会議・宿泊・商業施設等の受入施設が集積する都内各地域のMICE拠点と連携した誘致の促進を図るとともに、各地域の魅力的なMICE受入環境を海外へ発信する取組も充実させる。

MICE開催拠点地域の指定



- ▶ ユニークベニユーの更なる活用促進に向け、東京での MICE 開催に影響力のある在京大使館や上場企業などを対象とした「ショーケースイベント」の開催を通じて、都内のユニークベニユーの活用を促進する。また、特設ウェブサイトの内容を充実することで、国内外に東京のユニークベニユーの魅力や活用事例などを幅広く発信していく。

ショーケースイベント（柴又帝釈天）



- ▶ 都内でユニークベニユーとして利用可能な施設の紹介や受入施設側との利用調整、イベントプランの提案などの支援をワンストップで行う総合支援窓口を設置し、ユニークベニユーの円滑な利用を促進していく。
- ▶ MICE 主催者における都内のユニークベニユー利用の際に必要な会場設営費や、受入施設におけるイベントやレセプション等の開催に必要な設備の導入を支援していく。

MICEにおけるDXの推進

【現状と課題】

- コロナ禍におけるMICEの開催は、オンラインでの開催や、一部会場での参加者を交えたオンラインとの併催、いわゆるハイブリッド開催が主流となり、感染防止対策だけでなく、オンライン用の通信環境の整備など新たなニーズへの対応が必要となっている。
- また、新型コロナを契機として、オンラインなどでの開催においてデジタル技術の活用が求められており、専門人材の確保が必要となっている。

【具体的な取組】

- ▶ オンラインやハイブリッドでの開催を予定しているMICE施設等において、大型スクリーンやWi-Fi等の設備導入を支援していく。
- ▶ MICE主催者によるDX導入を促進するため、国内外での事例調査や、デジタル技術を用いた会議等の実証実験を行い、東京における次世代型のMICE開催のガイドラインを策定し、MICE関連事業者へ普及していく。
- ▶ 次世代型MICEの推進に向け、ハイブリッド開催への支援を充実させるほか、国内外におけるMICEの開催状況を調査・分析の上、先端テクノロジーの実装を支援する。
- ▶ DXの進展に対応するため、MICE関連事業者におけるデジタル技術の知識やノウハウを有する人材の育成を支援していく。

持続可能なMICEの推進

【現状と課題】

- MICE開催においては、近年、持続可能性の観点での取組が求められており、SDGsに関する取組が主催者に対する評価につながることから、誘致活動では主催者や受入施設等におけるSDGsに配慮した取組が重要となっている。
- また、MICEを開催する地域においては、開催の意義に対する住民の理解促進が必要となっている。

【具体的な取組】

- ▶ MICE 主催者の SDGs に配慮した取組を後押しするため、国際会議における SDGs 達成に貢献する取組に必要な経費の助成等を充実し、東京への国際会議誘致に繋げていく。

SDGs 関連コンテンツの一部



- ▶ 国や MICE に関連する有識者・事業者などで構成する「東京都 MICE 連携推進協議会」において、都民などを対象としたシンポジウムを開催し、MICE が地域へもたらす効果などを発信することで、MICE 開催への理解促進を図っていく。
- ▶ これまでの MICE 開催による高い経済波及効果や産業力の強化などのメリットとともに、社会的効果や地域経済の発展に寄与する施策を改めて検証し、今後の MICE 誘致戦略に反映していく。
- ▶ コロナ禍で自然や分散化に注目が集まる中、多摩地域での MICE 開催を促進するため、多摩ビジネスイベント重点支援エリアにおける地域での取組として受入体制や人材育成の強化を図っていく。
- ▶ 島しょ地域での MICE 開催に向け、誘致等を支援するとともに、島内観光ツアーなどの支援プログラムの提供やプロモーション活動などを実施し、自然の宝庫である島の魅力を国内外に PR する。